

グループ展『大鬼の住む島』開催のご案内

展覧会名：『大鬼の住む島』

展示作家：大庭大介／鬼頭健吾／今西真也／大久保紗也／小谷くるみ／和田直祐

会 期：2019年9月21日（土）～10月20日（日）

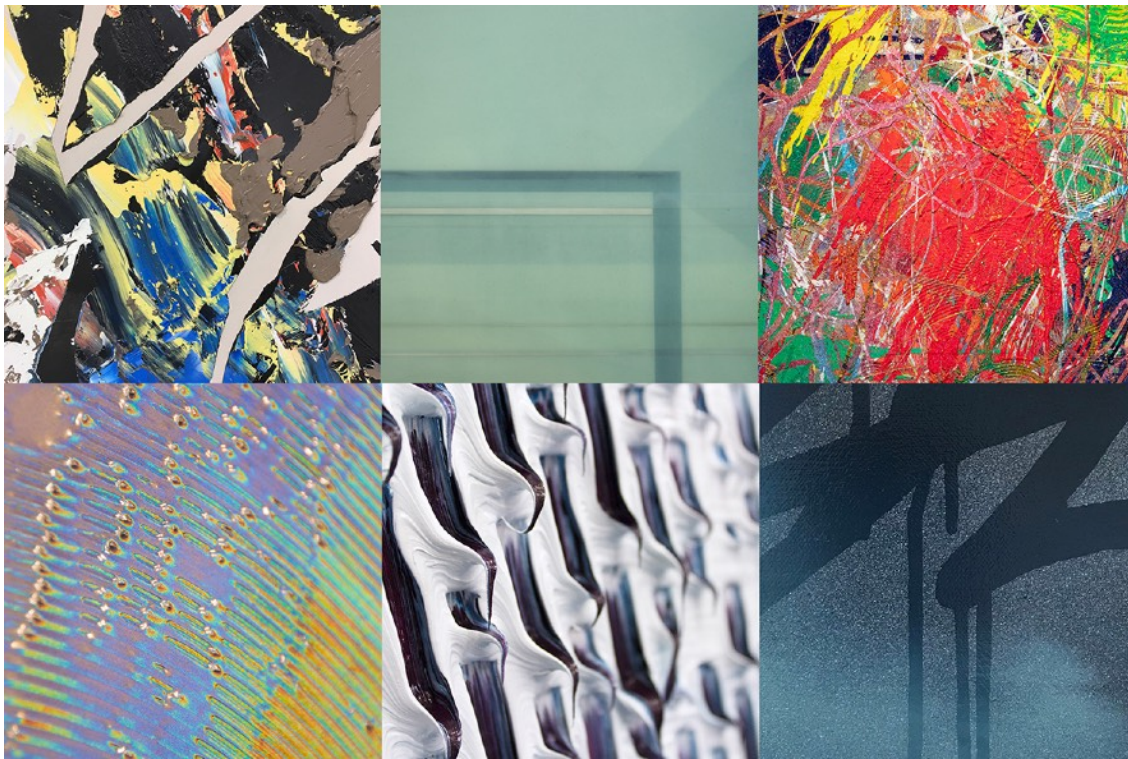
オープニングレセプション：9月21日（土）18:00-20:00

- ・会期中は、水・木・金・土 12-19時、日 12-17時のオープンとなります。（定休日：月火祝）
- ・本展のオープニングレセプションを、初日の9月21日（土）に開催します。展示作家も全員在廊予定です。なお、レセプション前の時間帯も、通常通り12時からギャラリーはオープンいたします。

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

協 力：SCAI THE BATHHOUSE, KENJI TAKI GALLERY, rin art association, nca | nichido contemporary art

WAITINGROOM（東京）では、2019年9月21日（土）から10月20日（日）まで、大庭大介・鬼頭健吾・今西真也・大久保紗也・小谷くるみ・和田直祐によるグループ展、『大鬼の住む島』を開催いたします。京都造形芸術大学で教鞭を取る大庭大介と鬼頭健吾、そしてその教え子である卒業年の異なる4名の、あわせて6名が初めて競演する展覧会です。



7年前に大庭大介が京都造形芸術大学大学院で指導することになった時には、アーティストを目指す学生は少なく、また、学生同士の縦や横のつながりや、シェアスタジオなどは皆無で、修了後に国内外の美術館での展示や、商業ギャラリーに所属し活躍する卒業生は、一部を除き、ほぼいない状態だったと言います。その2年後にベルリンから帰国した鬼頭健吾が、新たに大学院の指導者となり、それから5年の月日がたった今、国内外での展覧会参加や、コンペティション受賞、ギャラリーに所属など、国内外で活躍する修了生も徐々に増えてきているということです。また、京都造形芸術大学の卒業制作展には、東京からも多くのギャラリストやコレクターが次なるスターを探しにやってくるという状況で、業界内でも同大学の改革には大きな注目が集まっています。卒業後も大庭・鬼頭と卒業生の関係性は継続して続き、卒業生と在校生も定期的に意見交換する機会があるため、この数年で大学の層は厚みを増し、その絆は急速に深まっているように感じられます。現在は当ギャラリーの所属作家である大久保紗也とギャラリーの2017年の出会いをきっかけに、同大学の指導者である大庭と鬼頭、その教え子たちに接する機会を経て、主に絵画・そしてそのマチエールに焦点を置いた今回の展覧会が企画されました。

大学という場で出会い、教え教えられる立場であり、また共に励まし合い競い合うアーティスト仲間でもある、そんな6名が大学から外に出て別の場所で競演することによって、特別なケミカルリアクションが起こることでしょう。6名が話し合って決めたタイトル『大鬼の住む島』という展覧会を通して、彼らの出会いと過ごした時間の密度を垣間見ること、そしてそれぞれの作品がどのように影響しあい、それぞれ独自の展開をしていっているかを、この機会にぜひご高覧ください。

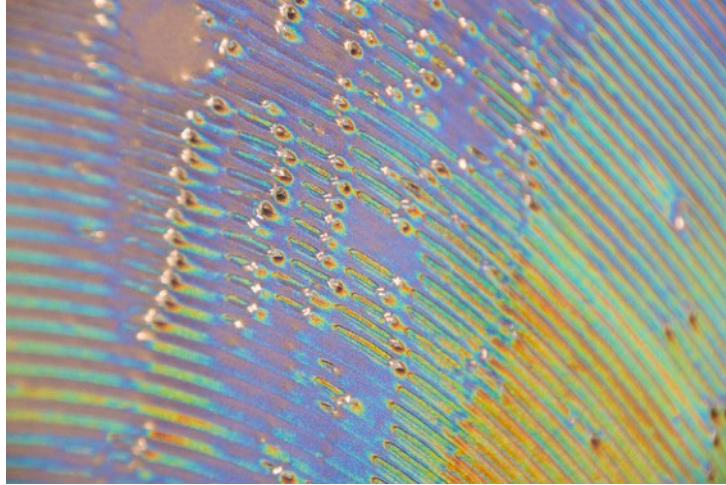


Photo by Omote Nobutada, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

大庭 大介 (おおば・だいすけ)

1981年静岡県生まれ。2007年に東京藝術大学大学院・美術研究科・油画研究領域を修了。SCAI THE BATHHOUSE 所属。京都造形芸術大学准教授。偏光系のアクリル絵具など様々な素材をもちいて独自の的方法論を与えた上で制作し、光の条件や鑑賞者の立ち位置によってイメージや色彩が変化し続ける絵画作品を展開しているアーティストです。

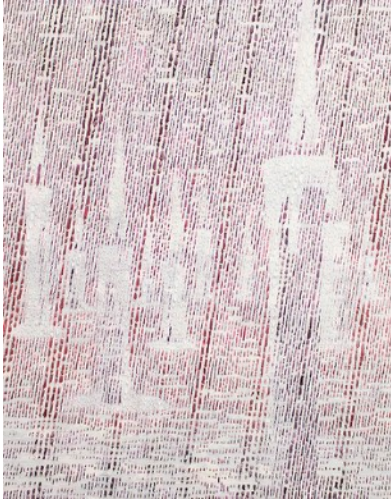
2009年、2012年、2017年とSCAI THE BATHHOUSEにて過去3度の個展を開催。近年の主な展覧会には、グループ展『かけがわ茶エンナーレ』（掛川市二の丸美術館、静岡、2017年）、グループ展『THE ECHO』（高崎シティギャラリー、群馬、2016年）、グループ展『静岡県立美術館 新収蔵品展』（静岡県立美術館、静岡、2016年）、グループ展『白の表現力～現代のコレクションから～』（静岡県立美術館、静岡、2015年）、グループ展『たぐ展☆（タグチアートコレクション）』（松本市美術館、長野、2014年）、グループ展『NATURES DUET:SELECTED WORKS BY JORGE MAYET&DAISUKE OHBA』（FAJAM FOUNDATION、ドバイ、2014年）、グループ展『The Islands of the Day Before』（開渡美術館（KdMoFA）、台北、2013年）、グループ展『超群島 Hyperarchipelago』（EYE OF GYRE、東京、2012年）、個展『The Light Field』（大和日英基金、ロンドン、2011年）など国内外多数。



鬼頭 健吾 (きとう・けんご)

1977年愛知県生まれ。2003年に京都市立芸術大学大学院・美術研究科・絵画専攻を修了。2008-2009年に五島記念文化財団の助成を受けニューヨークに滞在、2010年文化庁新進芸術家海外研修員として2年間ベルリンに滞在。2015年帰国。現在は群馬県高崎市在住。rin art associationとKENJI TAKI GALLERYに所属。京都造形芸術大学教授。フラフープやシャンプーボトル、糸や布など日常にありふれた既製品を使い、鏡やラメの反射、モーターによる動きなど、回転や循環を取り入れた大規模なインスタレーション、立体や絵画、写真など多様な表現方法を用いて作品を発表しているアーティストです。

主な展覧会には、グループ展『ギホウのヒミツ』（高松市美術館、香川、2019年）、個展『cart wheel galaxy』（ガトーフェスタハラダ本社ギャラリー、群馬、2018年）、個展『MULTIPLE STAR I-III』（ハラミュージアムアーク現代美術ギャラリーA、群馬、2017年）、グループ展『アートはサイエンス』（軽井沢ニューアートミュージアム、長野、2017年）、個展『cart wheel galaxy』（rin art association、群馬、2017年）、グループ展『THE ECHO』（高崎シティギャラリー、群馬、2016年）、個展『Time Travel - Tokyo』（ケンジタキギャラリー、東京、2016年）、グループ展『COSMOS/INTIME La Collection Takahashi』（パリ日本文化会館、2014-2015年）など国内外多数。



今西 真也 (いまにし・しんや)

1990年奈良県生まれ、奈良在住。2015年に京都造形芸術大学大学院・芸術表現専攻・ペインティング領域を卒業。nca | nichido contemporary art 所属。キャンバスに油絵具を塗り重ね、筆致の跡を力強く残しながら繰り返して描くことで、視点と距離との関係性を探り、私たちが共通に認識している事柄のあいまいさや不確かさを提示しようと試みて作品制作をしているアーティストです。近年の展覧会に、ARTISTS' FAIR KYOTO (京都文化博物館別館、京都、2019年/2018年)、『Kyoto Art Tomorrow 2019 一京都府新鋭選抜展』(京都文化博物館本館、京都、2019年)、個展『Wind, Rain, and your Words』(Art Delight、ソウル、2018年)、個展『ISANATORI』(nca | nichido contemporary art、東京、2017年)、日台文化交流展覧会マイ・コレクション展『感性の寄港地』(T-ART GALLERY、東京、2017年)、群馬青年ビエンナーレ 2017 (群馬県立近代美術館、群馬、2017年)、『劫後風景』(galerie nichido Taipei、台湾、2016年)、『混沌から躍り出る星たち2015 京都造形芸術大学 次代のアーティスト展』(スパイラルガーデン、東京、2015年)、nca new generation project 『Sensing Body』(nca | nichido contemporary art、東京、2015年) など。



大久保 紗也 (おおくぼ・さや)

1992年福岡県生まれ、京都在住。2017年に京都造形芸術大学大学院・芸術専攻ペインティング領域を修了。WAITINGROOM所属。輪郭線として表現される記号的なイメージと、物質感を伴うフェノメラルな像のうねりという、二つの分離した要素を共存させた絵画を制作しているアーティストです。

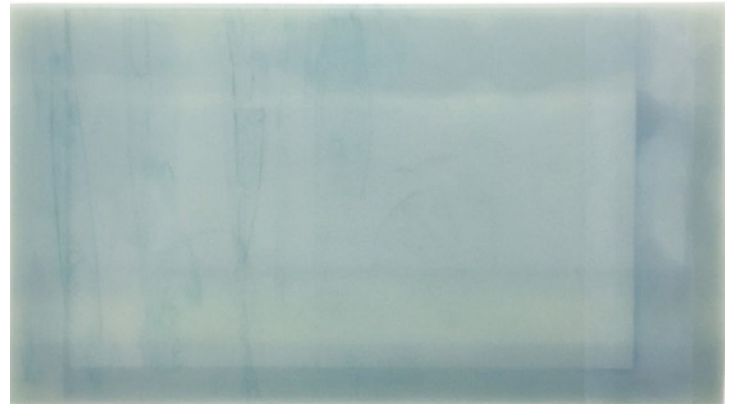
近年の展覧会に、個展『a doubtful replay』(WAITINGROOM、東京、2018年)、グループ展『美大生展2017』(SEZON ART GALLERY、東京、2017年)、グループ展『NEWSPACE』(WAITINGROOM、東京、2017年)、グループ展『movement 2016 - 1st movement -』(ARTZONE、京都、2016年)、『HERE I AM KUAD x TUNA交流展』(Na pai Art Gallery、台北・台湾、2015年)、グループ展『HOP2015』(Galerie Aube、京都、2015年)などが挙げられます。まだ展示歴の少ない92年生まれの新生でありながら、2017年秋に参加した公募グループ展『第4回CAF賞入賞作品展』(代官山ヒルサイドフォーラム、東京)では白石正美賞を受賞し、その作品が大きく注目されています。



小谷 くるみ (こたに・くるみ)

1994年大阪府生まれ。京都造形芸術大学大学院・芸術専攻ペインティングコース修了後、大阪を拠点に活動。不確かなものの存在の痕跡や気配をテーマに、主に平面作品を制作しています。画面全体を窓と想定し、結露したガラスに何者かが触れた痕跡を残す、まるでホラー映画の一場面を連想させるような画面を描き出すことによって、神秘的あるいは超自然的な何かの存在を浮かび上がらせるような絵画作品を制作しています。

主な展覧会に、グループ展『nine colorsXIII』（西武渋谷店、東京、2019年）、グループ展 KUAD ANNUAL 2019『宇宙船地球号』（東京都美術館、東京、2019年）、グループ展『起きるために寝る』（MediaPassage、京都、2018年）、グループ展『SHIBUYA STYLE vol.12』（西武渋谷店、東京、2018年）などが挙げられ、若手ながら今後の活躍に注目が集まっています。



和田 直祐 (わだ・なおすけ)

1983年兵庫県生まれ。2013年に京都造形芸術大学大学院・修士課程・芸術研究科・芸術表現専攻ペインティング領域を卒業。グレーズという薄く溶いた絵の具を幾層にも塗り重ねる古典技法を参照し、それを現代的なメディウムに置き換えることで、形や色が鑑賞する度に微量に変化し、観るという行為自体を再考させる絵画を制作しています。

主な展覧会に、『JOINT EXHIBITION yodostudio×studioHAIDENBAN』（スタジオハイデンバン、京都、2017年）、『和田直祐 絵画展 Terrarium』（山中suplex、滋賀、2016年）、『東北芸工大×京都造形大 大学院生交流展BRIDGE』（アートスペース羅針盤、東京、2012年）、『アートどすえー京都芸術物産展』（Hidari Zingaro、東京、2011年）、『カイメンカッセイ21人展』（海岸通ギャラリーCASO、大阪、2010年）、『モルモルモット』（0000gallery、京都、2010年）などが挙げられる。また、今年2度目の開催だった『ARTISTS' FAIR KYOTO 2019』（京都府京都文化博物館別館・京都新聞ビル印刷工場跡）でもその作品が大きな注目を浴びました。

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM (代表：芦川朋子)

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日：月火祝

Tel：03-6304-1877 Eメール：info@waitingroom.jp

Web：http://waitingroom.jp